

日本語教室学習指導案

令和3年12月14日(火) 第5校時(13:45~14:35)

玉村町立南中学校 日本語教室 指導者 田中 裕子

授業の視点

自己表現ゲームや視覚教材を取り入れることは、生徒の発想力や語彙力を高め、進んで学習しよう、初出の漢詩も進んで読んでみようという姿勢を育てるのに有効であったか。

1 教材 国語2「漢詩の風景」(光村図書)

2 考察

(1) 身に付けさせたい資質・能力及び生徒の実態

本校の日本語教室は、町内の中学校に在籍する日本語指導・生活指導・学習指導を必要とする外国籍生徒の指導・支援の充実を図ることをねらいとして令和2年度に設置された。担当教員1名と、日本語指導補助員1名(週2回)が指導に当たっている。

国外から日本に来た生徒は、言葉の通じない異文化の中で生活することを余儀なくされ、相当なストレスを抱えていると思われる。そのような生徒たちが少しでも早く日本の学校生活に慣れ、教職員や同級生との意思疎通がスムーズにできるよう丁寧な支援を行いたい。まずは自分の思いを相手に伝える能力を身に付けさせることが適応の第一歩になると考える。

また、中学校においては、将来に希望を持って進路を選択できるように支援することも日本語教室の大きな役割である。そのために、日本語と教科の統合学習を念頭において指導を進め、各教科の学習内容や宿題の補習等も行っている。使用している教材は「日本語学級」(凡人社)・「日本語を学ぼう」(文科省)の他、小・中学校の教科書や漢字ワーク等である。

現在、日本語教室に在籍している生徒は玉村中学校と本校合わせて9名である。生徒の指導時間は担任や保護者と情報交換を行い各自の適応状況に応じて週2~6時間で設定している。1時間の取り出し人数は1~3人に絞り、個のニーズに応じた指導を目指している。

~個人情報のため詳細は省略~

本時の取り出し生徒は2名である。両者とも小学校高学年で来日し、中央小学校の日本語教室に通級していた。昨年度中学校に入学してからは、本校の日本語教室で週3時間、取り出し指導を行い、教科のわからないところや日常生活で困っていることなどを質問できるようにしている。簡単な日本語の指示はほぼ理解でき、学校生活にも適応できている。

日本語の4技能の力もDLAの基準に当てはめると両者は、ほぼ同レベルである。

《話す》聞かれた質問に答えられ、ある程度まとまった話ができる(ステージ4～5)

《読む》だいたい文や意味のまとまりに区切って読める。(ステージ4)

《書く》支援があればある程度まとまりのある作文が書ける。(ステージ4)

《聴く》教師の話の大筋と流れがある程度理解できる。(ステージ4～5)

1名は、漢字の習得が早く、丁寧なしっかりとした文字を書くことができる。日本語を積極的に使おうという気持ちがあり、話したり書いたりすることに対する抵抗感が低い。毎日担任に提出する生活ノートにもしっかりと文章が書ける。その反面、数学に苦手意識を持ち、正の数・負の数や分数・小数の計算に躓いているので支援が必要である。また他のフィリピン出身の生徒に比べると出身国フィリピンの公用語である英語を忘れてしまっている点も心配である。

もう1名は、医者になりたいという将来の夢を持ち、熱心に学習に取り組んでいる。英検2級に合格したり英語のスピーチコンテストに参加したりと意欲的である。理解力もあるが、教科学習言語の壁は高く、未だ努力の結果が定期テスト等には反映されていない状態なので、意欲をそぐことなく、努力を継続させたい。

(2)教材観及び題材設定の理由

在籍学級の授業の先行学習として「漢詩の風景」を扱う。

この単元で扱われている漢詩には自然の美しさを感じる心や、友や故郷と離れるさびしさなど現代の日本人にも通じる感情が歌われている。外国にルーツを持つ生徒たちにとっては読み取ったり感じ取ったりすることが難しいと思われる。

この学習では一年生で学習した訓読の基本や漢詩の種類や形式が確認できる。

また、これまでに学習してきた漢字が中国から伝来したものであることや、遣唐使が優れた漢詩を伝えたことなど歴史の学習を振り返ったり、漢詩を読んだ感想などを伝え合ったりすることができる。

高校入試の国語の問題は、日本語教室に通う生徒たちにとっては大変難しい。その中でも、古文と漢文は、見ただけで敬遠されがちである。しかし現代仮名遣いに直す問題や、返り点を付けたら、書き下し文にする問題など、基本を押さえておくことで現代文の長文などよりもむしろ取り組みやすいので2年生のうちから親しませておきたい。

漢詩の種類は絶句(四句)か律詩(八句)か、五言か七言か、で判別できるので、覚えやすいと思われる。訓読文を書き下し文に直すことも難易度は高くないと思われる。在籍学級の国語学習とつながりを持たせるよう、教科担当と学習内容を確認しながら指導し、生徒たちに国語の授業に安心して参加できる、理解できるという自信を持たせたい。

授業の導入の段階では、まず生徒たちの緊張をとく目的でPITANGOというゲームを実施する。

普段は、課題が早く終わった時に語彙力や発想力のトレーニングとして時折実施するしりとりゲームである。単なるしりとりではなく、各自に配られたお題カードから連想できる単語でなければならない。また答えるのは順番でなく、早い者勝ちなので作戦を立てれば連続で答えて手札を減らすこともできる。

《例》「アリ」に続いて「リンゴ」⇒「ゴリラ」と答えたい。

手札が「赤い」「ネガティブな」「クールな」「巨大な」だとすると、手札の「赤い」と「巨大な」のカードを連続で捨てることができる。「ネガティブなゴリラもいる！」と主張して、他に連想が難しそうなカードを捨てても良い。他のメンバーは「その連想は無理だ。」と思ったらイエローカードで抗議することができる。

このゲームは知っている言葉をどんどん思い浮かべ、考えている間に他のプレイヤーに先を越されたら素早く頭を切り替えて別の言葉を思い浮かべなければならず、日本人にも充分難しく頭の体操になるゲームである。「1対1なら会話できても、複数のグループ内での会話は聞く一方になり、混ざれない」という生徒たちにとって、人の話を聞きながら自分の話したいことを考える練習になると考える。

また、高校入試の面接対策として、普段から UNGAME という自己表現ゲームを取り入れている。質問文を音読し、答えるものであるが、人の話を遮らないというルールがあるので、発言者は音読練習ができ、答えをまとめる力がつき、自分の話を最後まで聞いてもらえたという満足感を持つことができる。傾聴者には、人の発言をしっかり聞く姿勢や、自分の番になったらしっかり答えたい、積極的に日本語で話したいという気持ちが生まれることが期待できる。

《質問カードの例》「あなたの長所を3つ教えて」

「あなたのお父さん（お母さん）は、あなたのことをどう思っているだろう？」

「あなたの密かな野望を話してください。」

「幼い頃の、眠るときの思い出を聞かせて」

本時では質問カードの中に「この写真を説明して」という課題を入れ、日本や中国の風景写真について対話をすることで漢詩の学習につなげたいと考える。

3 目標

漢詩を朗読し、独特の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。

漢詩に歌われている情景を想像し、いにしえの人の心情に触れる。

4 評価規準

- ・文語のきまりや訓読の仕方を知り、漢文を音読し、特有のリズムを通して漢詩の世界に親しんでいる。(知識・技能)
- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して漢詩に表れたものの見方や考え方を知る。(知識・技能)
- ・進んで学習に取り組んで漢詩の世界に親しみ、理解しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

5 指導と評価の計画（3時間）

時間	学習活動	学習への支援	評価項目
1	○漢文の読み方の復習 ○教科書の漢詩を読む。	○1年時の学習を振り返り、返り点に注意して読む順番を数字で書き入れる練習をさせる。 ○漢詩に形式があることを知らせる。 ○写真や資料集を見て日本には四季があること、それぞれの季節に趣があることを知らせる。	返り点や送り仮名が分かる。(知・技)
2	漢詩「春暁」を読む。	○写真や資料集を見せ、漢詩のおおまかな意味や情景を捉えさせる。 ○読む順に数字をメモさせるなどステップを踏んで、返り点の付け方に慣れさせる。 ○「を⇔ヲ」など忘れていることのあるカタカナを確認させる。	漢文の読み方、漢詩の種類と形式がわかる。(知・技)
3 本 時	○漢詩「絶句」を読む。 ○教科書以外の漢詩の問題に触れる。	○写真や資料集を見せ、漢詩のおおまかな意味や情景を捉えさせる。 ○返り点・送り仮名・書き下し文・詩の形式等、問題文中の語句の意味を確認し、問題解決の手順に気づかせる。 ○問題を自分で解けるようになったことを誉め、在籍学級での学習に対して自信を持たせる。	・漢文を音読し、漢詩の世界に親しんでいる。(知・能) ・進んで学習に取り組み漢詩の世界に親しみ、理解しようとする。(主体態)

6 指導方針

- ・導入部ではウォームアップとして PITANGO（しりとりゲーム）と UNGAME（自己表現ゲーム）を行う。
- ・先行学習として漢詩を取り扱い、生徒たちが安心感と自信を持って在籍学級の国語の授業に臨めるようにする。
- ・タブレット等を使用して映像を見せることで、漢詩に歌われている情景を理解しやすくする。
- ・送り仮名のカタカナをひらがなに直す作業では「を⇔ヲ」など忘れている文字がないか確認する。
- ・書き下し文をもとに白文に返り点をつける作業は難しいと感じる生徒が多いので、読む順に数字をメモさせるなどステップを踏んで慣れさせる。
- ・キャリア教育の観点から、高校入試の過去問等を示し、現段階で高校入試の問題も解けることを確認して学習意欲を刺激するとともに進学への意識付けとする。
- ・初出の漢詩を読むことには抵抗感が高いと思われるので数問準備して自分で取り組みやすい問題を選ばせる。

7 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

現代語訳や写真を手掛かりに漢詩に親しむ。

(2) 準備

教科書 プリント 和英辞典 国語辞典 タブレット ホワイトボード

(3) 展開

過程	学習活動 ○生徒の意識	時間	指導上の支援及び 留意事項	評価項目
つかむ	<p>1 PITANGO UNGAME 「この写真について感想を聞かせて。」 ○雪の山がきれい。フィリピンでは見られない景色だな。</p> <p>2 本時の見通しをもつ。 ○初めての漢詩はまだ読めるか不安だな。</p>	17分	<ul style="list-style-type: none"> ・話そう、答えようとする姿勢をほめ、楽しく取り組ませる。 ・写真等を用いて日本の風景や四季を意識させる。 	
<div style="border: 1px dashed blue; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 初めて見る漢詩が読めるかな？ </div>				
追究する	<p>3 教科書の漢詩「絶句」を読み、漢文の読み方や漢詩の形式を復習する ○返り点通りに読むのは難しいな。</p> <p>4 初出の漢詩の問題を自分で選択して取り組む。 ○短い詩を選ぼうかな。 ○習ったことを使えば答えられそうだ。</p>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料集を用いて、詩の情景を捉えさせる。 ・返り点や送り仮名に気をつけて音読させる。 ・感想を言わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て自分の考えを伝える。(知・技) ・文語の決まりに従って音読する。(知・技)
まとめる	<p>5 本時の学習を振り返り次時の見通しをもつ。 ○先輩の受けた高校だ。 ○国語の授業もがんばろう。</p>	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりをほめ、本時の感想を聞く。 <p>「○○高校の問題だったけどがんばったね。」</p> <p>「気になる漢詩があった？」</p> <p>「国語の授業がんばれそう？」</p>	